

1

chapter

1.1 section

実数の切断は，下組と上組との境界として，一つの数を確定する [Dedekind^{*1}の定理].
 \mathbb{R} の部分集合の組 (A, B) が

1. $A, B \neq \phi$
2. $A \cup B = \mathbb{R}$
3. $\forall a \in A, \forall b \in B$ に対し, $a < b$

を満たすとき, (A, B) を Dedekind の切断という.

```
1 /* ここにはソースコードを書く */
2 #include<stdio.h>
3
4 int main(void)
```

^{*1} こんな感じで脚注を書く, Julius Wilhelm Richard Dedekind, ドイツのブラウンシュヴァイク出身の数学者.

```
5 {
6   printf("Hello, World!\n");
7   return 0;
8 }
9 /* breakable を付けるとこんな感じで改行にも対応できる */
```

```
## ここにはコマンドを書く
```

```
$ echo "Hello, World!"
```

図表はキャプションを付けたときに、先頭に「▲」や「▼」を付けるようにした。

▼ 表 1.1 表のサンプル

日本	hoge	fuga	piyo
アメリカ	foo	bar	baz



▲ 図 1.1 図のサンプル

これはコラム

コラムも随時挟めるようにした。

tcolorbox は title を指定するといい感じにタイトル付きの枠で囲ってくれる。